3.　『火の用心は、してきたの？』

兵庫県婦人防火クラブ連絡協議会

会長　前澤　朝江さん

深夜に響く消防自動車のサイレン。その後続く救急車の音。

「あ！　またどこかで火災が起きたな」「誰かが怪我をしたのかな」と、最近では耳慣れてしまった音に悲しい想像がよぎる。

毎日のようにマスコミを賑わすニュースの中に火災による死者も後を絶えず、他人事ではないと痛感する昨今です。昔から、家庭の主婦や母親達が常に心掛けてきたことは、「家族の健康」と「火の管理」であったのだが、現代の母親の中で「絶対大丈夫」と子供達に答えられる母親が果たして何人いるだろうか？

私は、「それではいけない」、「防火に対する母親達の意識をもっと高めなければ」の実現を図り、賛同は得たものの、ただ火災の恐ろしさだけを話すのではなく、「火の大切さ」「正しい消火器の使い方ができなくてはいけない」と心に決め、すぐに役員組織を作り、会の名称も、夏の陽射しにも強く咲き誇る「ひまわりの花」を象徴して「ひまわり防火クラブ」と名付けました。

今まで片隅に置かれていた消火器を目につきやすい場所へ移動し、６５６所帯全家族が備え付け、『火の用心は、してきたの？』を合い言葉に一丸となって取り組みました。

平成7年の阪神・淡路大震災では、いかに火事を出さずに家族や街を守り抜いていくのか、不幸にも火事になった場合、短時間でいかに適切な対応ができるのかを考えさせられました。人間は周りの人々と協力していかなければ生きていけないことを痛感し、常日頃から隣人たちとの信頼関係を築くことが全ての出発点だと考えるに至りました。

さらに、地域の防災力を高め、市内全域を防災組織で覆いつくすために新たに結成された「自主防災組織」は男女を問わず老いも若きも全てを含んだ住民組織となりました。

今後私達に「何ができるか」を、今一度見直すことが必要ではないでしょうかと考え、私達が住む町「尼崎」から住宅火災の発生を未然に防ぐために広報活動を徹底し、そしてより一層の理解を深めてもらえるように身近な所から『火の用心は、してきたの？』を合い言葉に、行動力のある地域リーダー役を果たしつつ、「魅力ある街、尼崎」を目指したいと考えています。

（消防庁機関紙「消防防災／2003－5・夏季号」より転載）

▲ このページの上に戻る